

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた たけのこ
- 4 今月の詩 ぶらんこ 淵上毛銭
- 5 たし算 1の段
- 6 ことわざ 犬も歩けば棒にあたる 憎まれっ子世にはばかる
悪銭身につかず 早起きは三文の徳
- 7 かけ算 2の段
- 8 俳句 松尾芭蕉 小林一茶 杉山杉風
- 9 かぞえうた 1頭 1斤 1挺 (パンダ、食パン、バイオリン)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた いとまき
- 12 音の絵本 救急車 飛行機 消防車 S L バス
- 13 イメージストーリー リード君 (第1話 はじまり)
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた ともだち
- 15 おはなし 大きなかぶ
- 16 童謡 春がきた
- 17 漢詩 春 曉
- 18 百人一首 大弐三位 菅家 大中臣能宣朝臣 壬生忠岑
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

*番号は、CDトラックNOです。

《たけのこ》

たけのこ ピョン ^{ふた}二つで ピョンピョン

たけのこ ピョン ^{ふた}二つで ピョンピョン

^{みっ}三つで ピョンピョンピョン ^{みっ}三つで ピョンピョンピョン

あっちに ピョンピョン こっちに ピョンピョン

^{ふた}二つで ピョンピョン ^{みっ}三つで ピョンピョンピョン

^{ふた}二つと^{みっ}三つで ピョンピョンピョンピョンピョン



ぶらんこ

ふちがみもうせん
淵上毛銭

ぶらんこに ^の 乗って

^{あおむ} 仰向けに ゆられていると

オルガンを ^き 聞いているようだ

^{あす} 明日も オルガンに ^の 乗って

あの ^{くも} 雲に ^あ 逢おう



ことわざ

いぬ ある ぼう
犬も歩けば棒にあたる

じっとしていればよいものを、^で出しゃばると思^{おも}いがけない目^めにあう。



にく よ
憎まれっ子世にはばかる

人^{ひと}に憎^{にく}まれるような者^{もの}が、かえって世間^{せけん}では幅^{はば}をきかす。



あくせん み
悪銭身につかず

不正^{ふせい}な手段^{しゅだん}で手^てに入^いれたお金^{かね}は、いつのまにかなくなってしま^いうということ。



はや お さんもん とく
早起きは三文の徳

朝^{あさ}早く起^おきるとなにかしら良^よいことがあるものである。



俳句

ふるいけ かわずと飛び込む みずおと
古池や かわず飛び込む 水の音

まつお ばしょう
松尾芭蕉



なひばり ひとかお ひく
鳴く雲雀 人の顔から 日の暮るる

こばやし いっさ
小林一茶



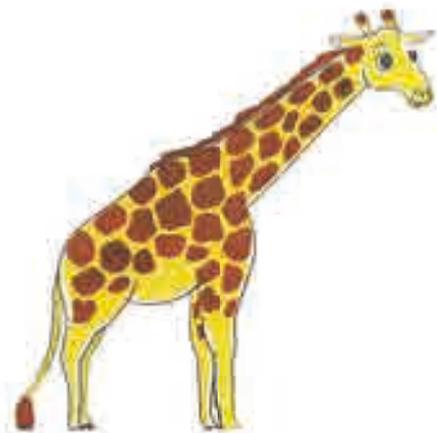
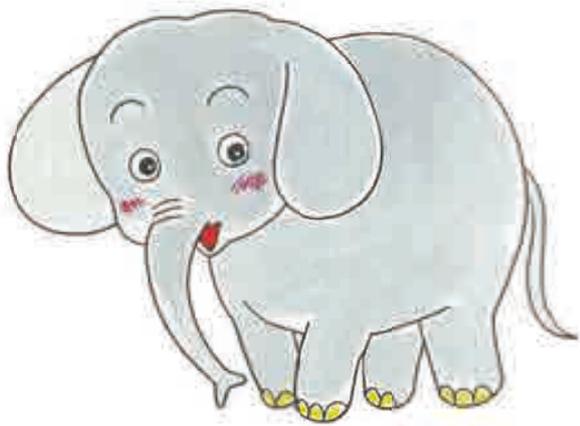
うまほお おし のけ 摘むや すみれぐさ
馬の頬 押しのけ摘むや すみれ草

すぎやまさんぶう
杉山杉風



なぞなぞ

- 1 おはなが、ホースのようにながい動物はなあに？
- 2 ^{みみ}耳が^{なが}長くて、ぴよんぴよんとはねる動物はなあに？
- 3 あかちゃんをお腹の^{なか}袋に、^{ふくろ}だいに^い入れている動物はなあに？
- 4 ^{くび}首が^{なが}長いせいたかの^{どうぶつ}っぽさんの動物はなあに？



《いとまき》

① いとまきまき いとまきまき



手をグーにして、ぐるぐるまわす

② ひいてひいて



2回よこにのばす

③ トントントン



グーを3回あわせる

④ いとまきまき いとまきまき
ひいてひいて トントントン

①②③ をくりかえす

⑤ できた できた



8回手をたたく

⑥ こびとさんの おくつ



手でくつをつくり、からだをゆらす

音の絵本

こんげつ
今月は、いろいろな乗り物です。

1) 救急車
きゅうきゅうしゃ

2) 飛行機
ひこうき

3) 消防車
しょうぼうしゃ

4) S L
エスエル

5) バス



《ともだち》

ともだちっていいね なかよくしよう
ともだちっていいね ケンカしても なかなおり
こまっていたら たすけてあげよう
おこった顔かおや 泣き顔な がおより
笑顔え がおが見たいから
ともだちいると 心こころぽかぽか あたたかい
ともだちになろうよ なかよくしよう

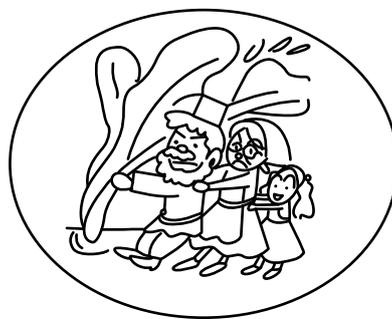
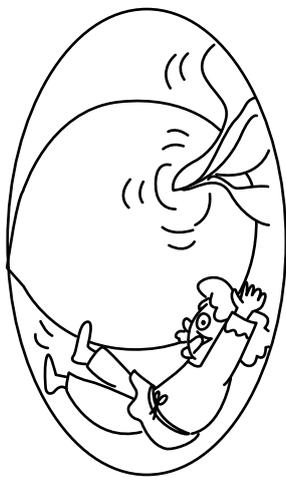




「おおきなかぶ」は、みんなで力を合わせてかぶを抜くお話です。

お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 おじいさんは畑に、何をまきましたか。
- 2 困ったおじいさんは、家に帰ってどうしましたか。
- 3 孫をひっぱったのは、誰ですか。
- 4 最後に、誰が加わったので、抜けたのですか。
- 5 全部で何人と何匹が力を合わせたのでしょうか。



春 しゅん

暁 ぎょう

孟浩然 もうこうねん

春眠 しゅんみん 不 しよ 覺 しよ

曉 あかつき を おぼ 覺 おぼ え え ず ず
啼 てい 鳥 ちよう を き 聞 き く く
風 ふう 雨 う の こえ 声 こえ

知 し る る 多 た 少 し ぞ しょう

夜 や 來 らい

花 はな 落 お つ つ る る こ こ と と

有馬山ありまやま

猪名の笹原いのな ささはら

いでそよ人を風吹けば
忘れやはする

(大弐三位)

このたびは

幣もとりあへず

紅葉の錦 神のまにまに
手向山

(管家)

みかきもり

衛士のたく火の

昼は消えつつ 夜は燃え
物をこそ思へ

(大中臣能宣朝臣)

有明の

つれなく見えし

暁ばかり 憂きものはなし
別れより

(壬生忠岑)



大弐三位